

## ◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は、11.31(769例)です。先週(第8週)の10.74(730例)に対し、やや報告数は多くなっていますが、全体としては、第4週(1月19日～1月25日)(27.51)のピーク以降減少傾向にあります。

## ◆ 今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

- 今週の定点当たり報告数は、0.07(3例)です。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- 二類:結核 3例(喀痰塗抹陽性 1例, 無症状病原体保有者 なし)  
【1月以降の累積報告数 39例(喀痰塗抹陽性 9例, 無症状病原体保有者 2例)】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	11.31	769
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.32	218
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	30
	③ 水痘	0.61	25
	④ 突発性発しん	0.24	10
	⑤ 手足口病	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルスA6型(2)	かぜ症候群(第44週) マイコプラズマ肺炎(第49週)	NP × 2	ヘルペスウイルス1型(1)	かぜ症候群(第49週)	NP
エコーウイルス9型(1)	かぜ症候群(第49週)	NP	血清型病原大腸菌(1)	感染性胃腸炎(第50週)	FC
インフルエンザウイルスAH1型(1)	インフルエンザ(第50週)	NP	A群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第51週)	NP
インフルエンザウイルスAH3型(1)	インフルエンザ様疾患(第50週)	NP	肺炎球菌(6)	かぜ症候群(第49週) × 2 RSウイルス感染症(第50週) かぜ症候群(第50週) × 3	NP × 6
インフルエンザウイルスB型(1)	かぜ症候群(第48週)	NP	インフルエンザ菌b型以外(2)	かぜ症候群(第50週) × 2	NP × 2
ノロウイルスGII(4)	感染性胃腸炎(第49週) 感染性胃腸炎(第50週) × 2 感染性胃腸炎(第51週)	FC × 4	マイコプラズマ・ニューモニエ(2)	かぜ症候群(第49週) かぜ症候群(第50週)	NP × 2
アデノウイルス2型(2)	上気道炎(第50週) かぜ症候群(第50週)	NP × 2			

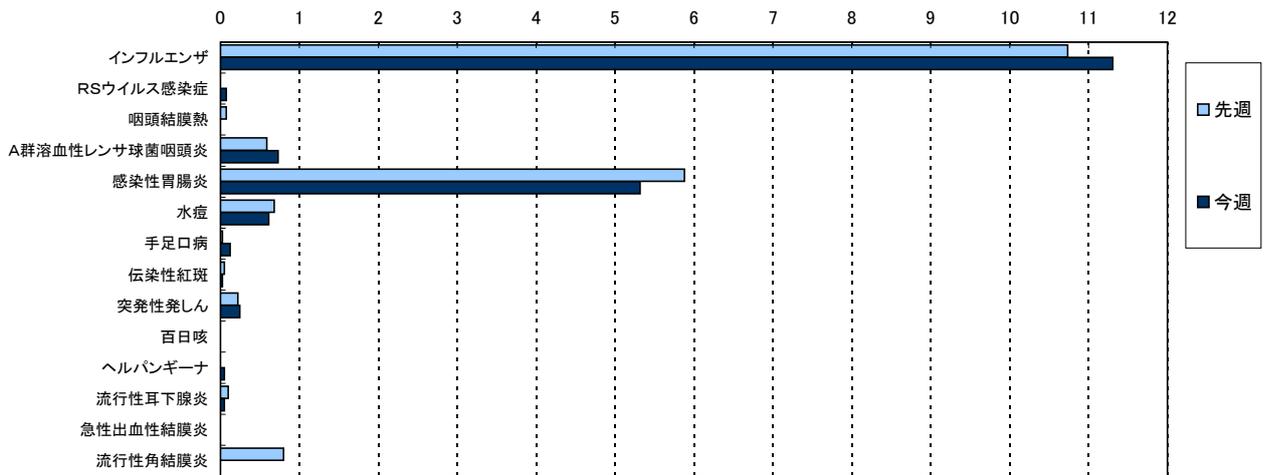
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成21年3月5日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

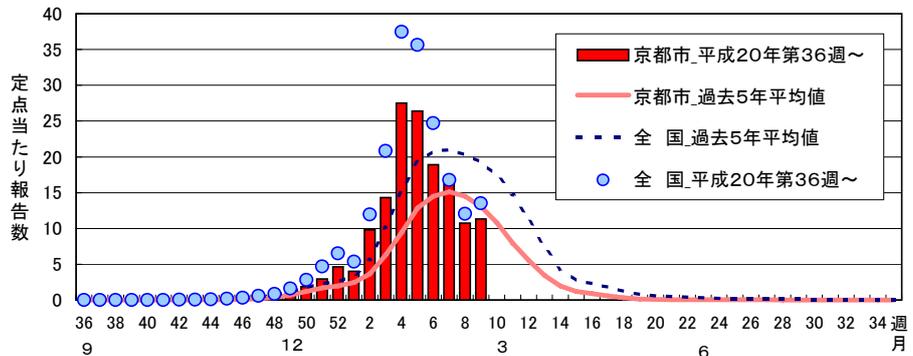
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第9週)と先週(第8週)の定点当たり報告数の比較



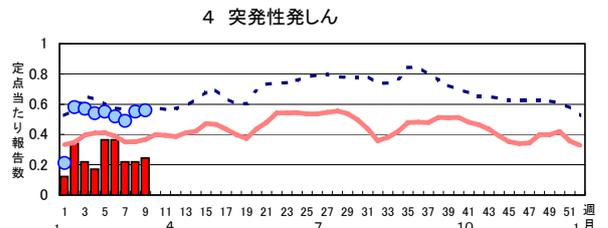
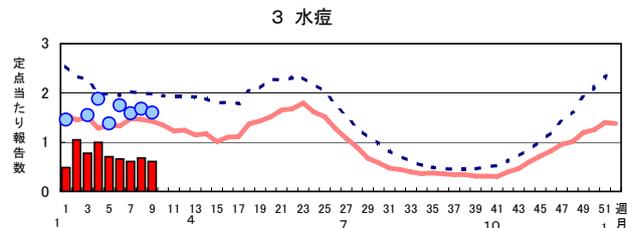
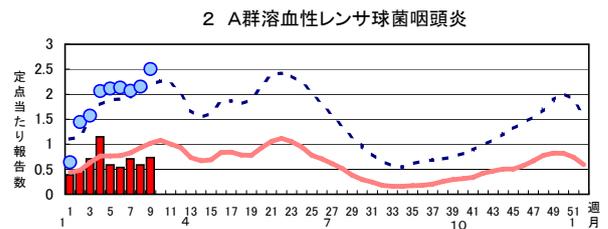
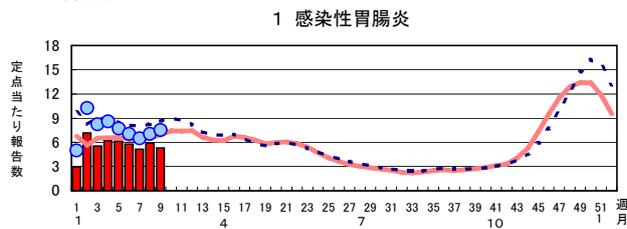
## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第5週	1796
第6週	1285
第7週	1101
第8週	730
第9週	769
累積報告数 (第36週以降)	10233

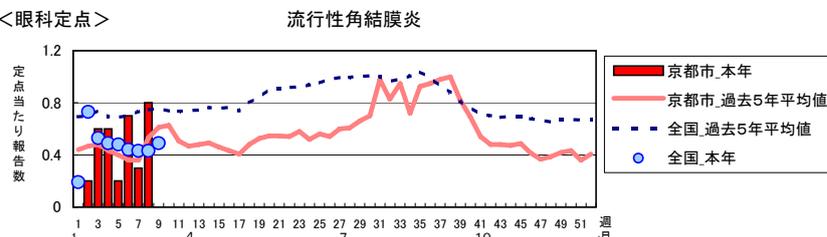


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



# 今週(第9週)のトピックス: <RSウイルス感染症>

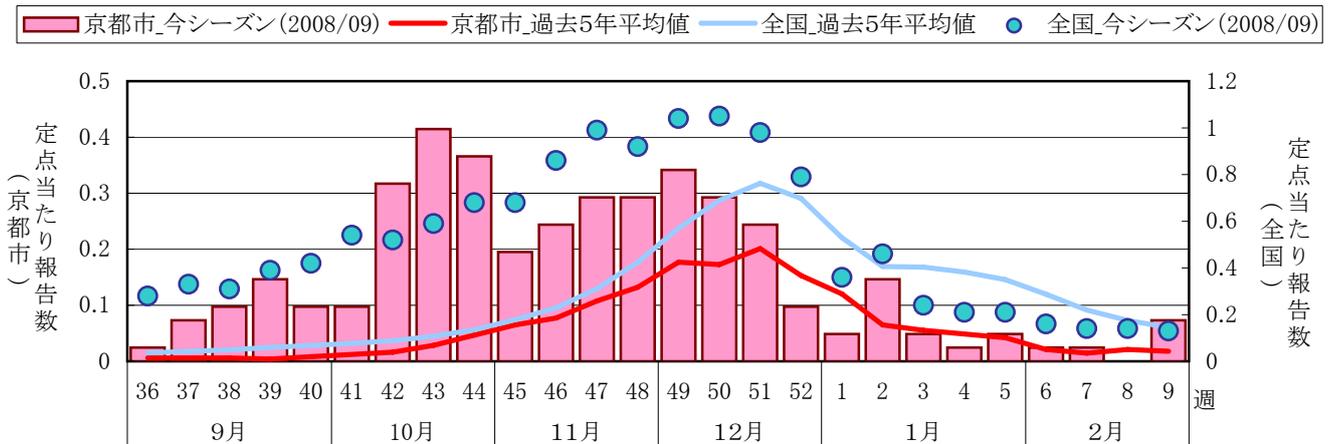
今週の定点当たり報告数は、0.07(3例)です。

今シーズン(平成20年9月(第36週)～)の推移をみると、9月から報告があり、例年に比べ早い立ち上がりで、10月にはピーク(第43週(0.41))を迎え、その後12月まで、長期にわたり報告数の多い状態が続いています。その後は、減少していますが、第8週を除いてすべての週で報告があります。

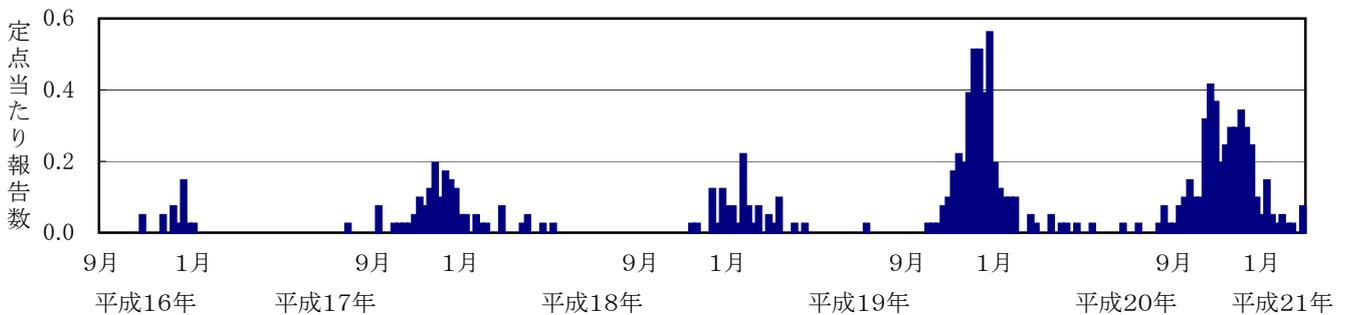
平成16年(第36週)以降の各シーズン(9月(第36週)～8月(第35週))をみると、ピークが最も高かったのは、平成19年～平成20年ですが、今シーズンは、第9週までの報告にもかかわらず、累積報告数が4.07(167例)と最も多くなっています。

また、年齢階級別にみると、今週は、0～5ヶ月が2例、1歳が1例で、今シーズンの累積報告数では、1歳以下が全体の80.8%を占めています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成20年第36週～平成21年第9週)



本市の定点当たり報告数 推移(平成16年第36週～平成21年第9週)



年齢階級別報告数の内訳(平成20年第36週～平成21年第9週 累積報告数)

